



東日本大震災

新入社員が被災地で  
ボランティア活動

NIPPO

NIPPOは、新入社員研修の一環として、東日本大震災に見舞われた宮城県の被災地でボランティア活動を実施している。男性社員34人が3班に分かれ、6月3日まで津波で浸水した民家の片付けや泥の排出などに取り組む。

同社では例年、新入社員に対し、業務・現場研修を行い、総務系が4月中旬、技術系は5月中旬にそれぞれ別の部署に配属していた。

ことしは、阪神大震災で避難所生活を体験したことがある水島和紀社長が、新入社員に社会貢献の精神を学んでもらおうと、同社のアスファルト合材工場がある被災地でボランティア活動させることを決めた。



民家の片付けを手伝う

ボランティアは、総務系8人が多賀城市で4月18日から同28日まで活動、技術系13人は岩沼市で今月9日から20日まで、同じく13人は石巻市で同23日から6月3日まで行う。引率者として、本社工事部社員も数人参加している。

多賀城市でボランティアに参加した東北支店営業部の佐藤優希さんは「入社前から被災地に行きたいと考えていたので、ボランティアに参加する機会を与えてもらったことに感謝している。被災者の要望にどう応えれば喜ばれるかを学ぶことができた。この経験を今後の仕事に生かしていきたい」と話している。

建設通信新聞  
平成23年5月16日掲載